

No	感染症(PT)	出典	概要
110	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-38	BSE感染ウシ由来の脳乳剤を用いてPrPresのin vitro感染系の確立を試みた。感染させたヒト由来グリオーマ細胞株から抗プリオン抗体に反応する約30KのPK耐性のバンドが検出された。このバンドは非感染細胞には存在しなかった。また、9ヶ月継代した感染細胞の培養上清に伝達性があることが明らかとなった。さらに20nmのウイルス除去膜によって培養上清の伝達性が減少することが認められた。
111	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症 (TSE) 諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子 (FVIII) 製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。
112	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2007 年2月9日 7-8ページ	将来のvCJDによる死亡率は、供血に関する公衆衛生上の施策によって予想されていたよりも遙かに低くなるだろうと英国の研究者が報告した。Royal Society Journal Interface誌オンライン版によると、2080年までの輸血によるvCJDの死亡例は50例と予測される。感染牛の摂食によるvCJD感染が排除されたため、現在では輸血による伝播が最も可能性が高いと研究者は話している。
113	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2007 年5月4日	イスラエルで血液事業を行っているMagen David Adomは、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に関する供血延期基準を変更し、1980年以降にフランス居住歴がある人の供血を可能とした。1980年から10年間のうちにイギリス、アイルランド、ポルトガルに居住歴のある人は、引き続き供血禁止となる。また、輸血を受けた人、B型肝炎やC型肝炎患者と一緒に住んでいた人、入れ墨を入れた人、内視鏡検査を受けた人、未検査の動物に噛まれた人の供血延期期間を短縮した。
114	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Acta Neurol Scand 2007; 116: 75-82	プリオン蛋白PrP ^{Sc} の生理学的機能に関するin vitroおよびin vivoでのエビデンスの総論である。今までの研究からPrP ^{Sc} が中枢神経系の多数の非プリオン疾患において疾病修正因子として重要な役割を果たすことが示唆されている。また、神経発達および神経保護や免疫調整における役割に関する研究が集積しつつある。これらの研究はPrP ^{Sc} の生物学的役割の理解に貢献し、新しい薬理的介入の発展をもたらすかもしれない。
115	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrP ^{Sc} を分子分析した結果、vCJDでみられるPrP ^{Sc} 4型と似た新規のPrP ^{Sc} であることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリオンであった。
116	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochim Biophys Acta 2007; 1772: 598-609	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)がウシのBSEと同じプリオン株によってヒトに発症するという認識はヒトプリオン病の分子生物学に関する正確な理解の必要性を注目させた。多数のプリオン病患者から得られた詳細な臨床的、病理学的および分子学的データはヒトプリオン病における表現型の多様性が、疾病に関連したPrPアイソフォームの伝播に部分的に関係していることを示した。ヒトにおけるプリオン感染の潜伏期間は50年を超えることもあるので、ヒトvCJD流行の程度を予測するにはまだ数年要する。
117	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2007; 35: 79-97	ドイツにおいて、vCJDが血液供給へ及ぼす影響について実際の集団データを基にモデル計算を行ったところ、輸血を介した伝播がvCJDを永続化するような可能性はなかった。更に、受血経験者を供血から排除しても輸血の安全性向上にはほとんど寄与しないが、血液供給には多大な影響を及ぼすと考えられた。そのためドイツにおいては受血経験者の除外は推薦されなかった。
118	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2007; doi:10.1016/j.biologics.2007.04.005	異なるポアサイズのウイルス除去膜を使用し、異なる処理を行ったスクレーピープリオン蛋白(PrP ^{Sc})の除去能力を評価した。超音波処理により粒子径分布を最適化するように調製した263K MFをスパイク物質として使用したときは、75nmのろ液中にPrP ^{Sc} が検出された。15nmのろ過のみが全ての条件でウェスタンブロット法の検出限界以下までPrP ^{Sc} が除去されることが示された。しかし、1条件下の15nmろ液のバイオアッセイの結果では、感染性PrP ^{Sc} が確認された。
119	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BRAIN MEDICAL 2006; 18: 371-376	BSEの発生状況は、今までの発生総数が125例以上の国では減少傾向にあるが、日本など低発生国では2005年に発生の増加がみられている。新たな問題として、非定型BSEが世界各国で検出されている。また特定危険部位以外の組織でプリオンが確認されている。慢性消耗病(CWD)はシカのプリオン病であり、自然状態で水平感染を起こし、伝播を阻止することは不可能に近い。しかし、シカとヒトの間ではかなり大きな種の壁があることが示唆されている。
120	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	赤血球製剤の輸血によるヒトでのvCJD感染症例が報告されている。げっ歯類のTSEに関する実験で、赤血球製剤の感染性は赤血球自体に関係があるのではなく、残存している白血球や血漿のような製剤中の他の成分に関係することが示された。vCJD因子がヒト赤血球と結合できないことが示されたら、vCJDが発生している国の血液サービスは輸血前に洗浄や濾過により感染性のある液相を取り除くことが賢明かもしれない。